

3

土作り、草作り、牛作り —酪農の原点を考える—

江別市・酪農家
町村末吉氏

(萬田座長)引き続き、次は“土作り、草作り、牛作り、酪農の原点を考える”ということで、江別の町村さんをお願い致します。今日の町村さんのお話しは、さきのお二方の経営とはかなり異質なものですが、北海道酪農の先覚者として多くの貴重な経験と見識をもっておられますので大変良い参考になると思いますので、宜しくお願ひします。



町村末吉氏

町村農場の概要紹介

(荒木氏) 私は、にわかカメラマンになって写真を撮りに伺ったんですが、時期が11月13日ってことで経営の特徴の写真があまり撮れなかったんです。しかし、その点は町村さんのご報告の中で聞いていただければと思います。早速スライドをお願い致します。

はい、(スライド写真①)これはお屋敷の方で実習生の宿舎がこの裏側の方にありますね。非常に静かなたたずまいのなかにあります。次どうぞ。これ、第一牛舎(スライド写真②)ですか。

(町村氏) ええ、第一牛舎です。

(荒木氏) 次どうぞ。この牛(スライド写真③)は、どういう牛ですか。

(町村氏) 大体生後3カ月から6、7カ月ぐらいの牛です。牛舎はちょうど今年で60年になります。

(荒木氏) ここの所に子供づれで来られていますけども、

(町村氏) 市民の皆さんが自由に出入りして、この牛と慣れ親しんでいるというところです。

(荒木氏) 次どうぞ。これは第二牛舎ですか。

(町村氏) これ(スライド写真④)は70年前に樽川(現石狩町)で創業したときの総合牛舎を昭和2年に江別の現在地にもって来まして、(昭和)36年にプレハブを初めて使い軒から上をキング式に改造しました。当初、半分は雄の育成舎で、残り半分は13頭の検定牛舎でしたけども、現



スライド①



スライド②

在は成牛44頭が一番搾っているうちのドル箱の牛舎です。

(荒木氏) 次どうぞ。これ(スライド写真⑤)が第三牛舎の方になりますね。

(町村氏) はい、これは初産の牛とそれから7、8カ月から大体14、5カ月までの牛が入っております。

(荒木氏) 次どうぞ。これ(スライド写真⑥)も古い牛舎ですね。

(町村氏) そうです。このサイロは60年たってます。

(荒木氏) こちらにあるサイロは、どういのですか。

(町村氏) これはモーストグレインサイロといいましてエン麦を貯蔵しているサイロなんです。当初は三段までだったんですけども(昭和)49年に道と支庁の人が是非やってみてくれというので建てたサイロで成績が良かったので、もう10年ぐらいなりませうか。中二つ足し増しして今は大体1,500俵ぐらい貯蔵できるモーストグレインのサイロです。その隣が自家飼料配合倉庫です。

(荒木氏) 町村さんの餌の特徴としては、今、おっしゃられたエン麦、これを自家生産でやられているってことに加えて、非常に特徴のある飼料給与(表6参照)になっております。

次どうぞ。これ(スライド写真⑦)は第二牛舎の内部ですか。

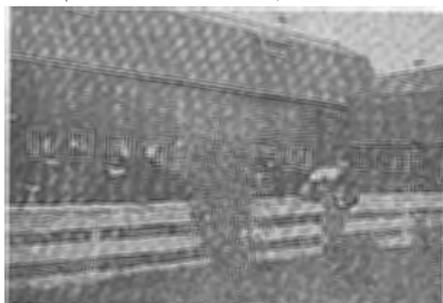
(町村氏) そうですね、古い牛舎なものですから天井も低く、スペースの割りに頭数が多いので換気の点でちょっと気にしております。

(荒木氏) 敷薬はふんだんに使われてますけども、これは?

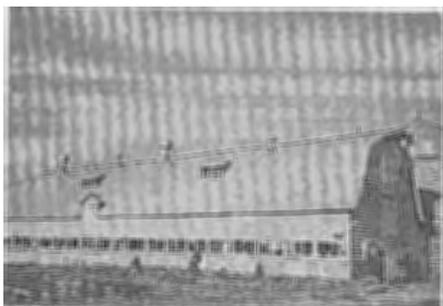
(町村氏) エン麦の他に麦も作ってますけれども、更に近くには麦作農家が多いものですから、大部分わけて載いて堆肥作りに努力しています。

(荒木氏) はい、次どうぞ。これ(スライド写真⑧)は、第三牛舎の内部ですか。

(町村氏) ええ、第三牛舎のですね。7カ月ぐらいから10カ月、1年ぐらいまでの育成牛のフリーストールにしております。



スライド③



スライド④



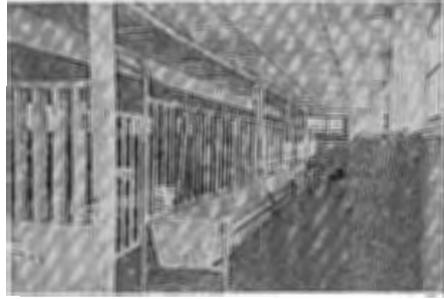
スライド⑤



スライド⑥



スライド⑦



スライド⑧

(荒木氏) 次どうぞ。あ、これ(スライド写真⑨)は先程の第二牛舎ですね。

(町村氏) そうですね。

(荒木氏) これも同じ第二牛舎、

(町村氏) そうですね。

(荒木氏) 町村さんは、皆さん既に有名な牧場でしてご存じの方も多いと思いますが、47年ごろまではブリーダーですか、43年?

(町村氏) ええ、市乳始めたのが(昭和)43年からでして、大体40年くらいまではまだ雄牛がおりましたよ。

(荒木氏) あそうですか。43年ごろブリーダーからこの市乳販売へと転換されたということですか。ええ、次、どうぞ。これも同じですね。

(町村氏) ボックスアーチです。

(荒木氏) 後で話が出るとおもいますが、草地更新を早くやられているってことですが、住宅街が農場(牛舎)に大分迫って来ているという環境にもありますね。その点で新しい農地を考えておられるとか。(スライド写真⑩)

(町村氏) ええ、うちはそういうことを計画しながら現在10年計画で準備をしております。

(荒木氏) 次どうぞ。これ(スライド写真⑪)は町村さんのところでお作りになっている牛乳ですね。

(町村氏) はい、そうです。

(荒木氏) 非常に味が良くて、ちょっと町村さんの宣伝するわけじゃないんですが、私の2才前の娘がいましてあまり牛乳飲まないんですけども、これは1本まるまるあけたということで、別に宣伝料は貰っているわけじゃないんですけども……(笑い声)、これで終わりですね。



スライド⑨



スライド⑩



スライド⑪

表1 町村農場の沿革

T 6	石狩町樽川にて町村敬費によって農場創設
S 3	江別対雁に移転、町村農場開設
S 41	有限会社に移行
S 43	市乳販売を開始（ブリーダーからの転換）
S 46	現在に至るまで当別・金沢の重粘土地・山林を開墾、土地改良を行う 江別篠津で草地・飼料畑拡大

発表講演

（町村氏）私の時間が参りましたので、その責務を果たさせて戴きます。勝見さん、佐藤さんの経営を聞いておまして私どもには非常に参考になります。私の経営が今日のこのシンポジウムの目的に役立つかどうか分かりません。が、私の経営者としての基本的な考え方としては、やはり経営と経済というもの是一体であるということをいつも頭に置いて、自分の経営を30数年して参りました。そういうことで、ここに概要を書いておりますから概略申し上げます。私どもは70年まえに牧場をはじめ、昭和2年から3年にかけて江別の現在地に移転し、36年までは、搾った乳は全部バターにして、そして雄牛をブリーダーとして全国に買って戴いておりました。ところが人工授精事業が30年頃から急速に伸びてきておりましたので、私どものブリーダーとしての経営の前途に対して不安を感じました。私は、いつも実習生に自分の経営は自分で守るっていうことを強くいう方ですが、それで43年に当別の分場の隣接の方で、当別で市乳していた方がいるんです。その方が札幌に出られた時に、土地と空きビンとビン詰めの施設があったもんですから、それを譲っていただき、基にして市乳を始めたんです。それまで街の子供達がバスで来たときに、殺菌した牛乳を庭へ輸送管で出していたんです。ところが、保健所からそれは本来認められないと言うようなことを聞いたりしまして、最初は子供達と周囲の人達に牛乳を、ということでも始めた市乳なんです。

まあ、そのころまだ雄牛が38年から42年当時でも、売れる年には24頭、売れない年で16頭ぐらいは出ていて、昨年まで自分のハードサイアっていうものを持って独自の改良をして参りました。けれども、現在、私共には種雄牛はいなくなりました。この33年の間に、そういう点で経営規模の拡大を絶えずして参りました。

私はいつも借金をするなということをして若い者にいう方として、借金をして良い借金というのは二つだけだぞ、ということをしていっています。

その一つは、やはり酪農経営していてエサが足りないということぐらい辛いことはないんですね。ですから牛の頭数も（昭和）30年から100頭弱の牛が現在210頭ぐらいになっていますが、その間絶えず先に農地を求める。あるいは農地を拓きその後牛を増やして参りました。そういう点で経営以外の無駄な土地を買うことは許されないので。が、もし求められるチャンスがあったらですね。やはりこれからの酪農は、北海道の場合、国際的に勝ってゆくためには機械化もされてますし、規模の拡大の要素

は整っていると思うんです。そういう点で、農地の取得の機会があれば極力、長期低利あるいは自己資金で求めることを勧めます。

もう一つは土地改良、これはもう金がたまったら暗渠をやろう、何かをしようというのを1年でも早くそうすることが結果的に良い飼料が出来るということと私は信じていますので、今も暗渠をしています。埋め立て地の跡地ですけれども毎年暗渠をしています。悪い時には補修をして、これは先代から土作りの一番の基本だと思って、私はそれを忠実に守っております。

それから、やはり牛乳の中にはカルシウム(石灰)の消費が多いわけですから石灰も必ず大体5年から7年ごとに粗粒石灰を反(10アール)当たり1トンずつ、石灰施用計画図を別個に作って、何年にこの土地に石灰を入れたということを必ず記録して、これも毎年、多いときには100トンから200トン近くのをずっと続けて来ております。そういうことで、基本的には、やはり良い土を作ることが良い草を作るということに結ばると信じてやっているわけです。

また輪作の形式としては、ここ(表2)に書いてありますが、江別の本場の土地は牧草5年作りましたら2年デントコーン作ります。そして3年目にはエン麦を作り、エン麦を収穫した秋に牧草を蒔いております。それから当別の分場の方は江別の本場から距離的に10数キロあるものですからデントコーンの運搬が出来ません。また、新しい土地で重粘でもありますので牧草4年作って翌年はエン麦を2年作りました。けれども今年から初めて2年目には秋蒔き小麦を蒔いて、その後に牧草を蒔くというようにしています。江別の本場の方の畑の好い土地は、牧草地の23.4ヘクタールの内18ヘクタール前後はルーサンを主とした牧草地にしています。ルーサンは単播しておりません。大体多いところでルーサン2キロ、それからチモシーを0.5キロ、それにオーチャードを0.3キロぐらい混ぜています。ルーサンだけの単播もよろしいんですが、3年目まではルーサンが非常に優勢なんですけれども、4年、5年目になりますとどうしてもルーサンが弱ってきます。そのとき、逆に禾本(イネ)科の入った方が収量が多いということで、そういうようにしています。それから、まだルーサンの適地でないというようなところは、ルーサン1.5キロにチモシーを1キロ、オーチャードを0.3キロぐらいの牧草地にして、5年牧草を作りましたら必ず更新しています。それから当別の方は牧草地が62.3ヘクタールもあるものですから、刈り取りをはじめるのは6月の、大体この道央地区ですから10日ごろに1番を刈るわけです。が、そのときルーサンは、当別の牧草が終わるころには江別本場のルーサンの2番とぶつかるといような状態なものですから、当別の分場の方には、刈り取り時期をズらすためにチモシーを2.5キロ、アルサイクク

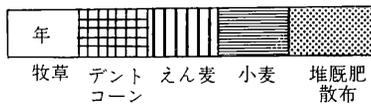
表2 経営の概況

労働力	家族 雇用 実習生	主(64) 妻(59) 次男(30) 妻(30) 社員5名 臨時2名 11名
経営耕地	普通畑 採草地	50.21 ha (うち 7.89 ha借地) 63.5 ha (ルーサン、禾本科)
作付内容	デントコーン えん麦 秋小麦 野菜	22.0ha 18.7ha 16.8ha 0.6ha
乳用牛	経産 種付 育成	111頭 31頭 69頭

輪作体系 (江別) 牧草(5年) - デントコーン(2年) - えん麦(1年)
(当別) 牧草(4年) - えん麦(1年) - 秋小麦(1年)

江別・対雁
31.6ha

(S19購入)



(S19購入)

(S43購入)

篠津(S45~S63購入)

48.39ha
(うち借地7.89)

当別・金沢

第1
35.4ha

第2
11.8ha

(S43山本
購入開墾)

(S47以降開墾)

(S35購入)

図1 耕地図

ローバを0.5キロ、赤クロバーを0.5キロ、それにホワイトクロバーを0.2キロというような割合にしています。当別の方は重粘地です。江別の方は、7、8年前までは牧草地は年に4回刈りました。ですけれども、8年前からは3回刈りに、当別の分場の方は2回刈りです。

牧草の利用の方法としては、ルーサンの多く入った牧草の1番は全部グラスサイレージにしています。で、私どもは今年も去年も一部をロールパックにしてまして良いこともわかりましたが、大部分を既存のサイロにグラスサイレージを詰めているんです。そのグラスサイレージのときのコツとしては、やはり予乾ということが一番で、グラスサイレージの質の良いものを作ることが大事な1つだと思っています。で、天気の良いときには朝刈りしましたら翌日の朝から切り込んでちょうど良いぐらいなんです。切り込みが遅くなったのは乾き過ぎになりますけども、そのつぎの時また良いのが入りますから、水分の少し多いのが入りますから。で、やはり水分の調整がグラスサイレージを作る時の一番のコツでないかと思っています。大体手で握って開いた時に、パッと開くくらいが大体水分60%か65%ぐらい、握ってダンゴになってたら70%以上ですから、どうしても牛は喜びません。サイロの口から水がジュンジュン、出てくるサイレージというのは、牛はどうしても喜びませんね。水分が少なくて少々中でカビが部分的にあるぐらいであっても、それはきれいに食べます。それから乾き過ぎた場合にはロールパックに去年も今年もしました。そうしますとルーサンの1番は乾草にしますと、反転したり何かしますとどうしても葉が落ちて茎だけになっちゃうんです。ですからグラスサイレージの場合には、刈りましたら午後からレーキをかけておいて翌日から、散らしていくというようにして、雨に当たった場合

表3 主要建物

	構 造	坪 数	建 ・ 増 築 年 次
牛 舎 1	キ ン グ 式	190	S 2
牛 舎 2	キ ン グ 式	110	T 6、S 2、S 36
牛 舎 3	キ ン グ 式	136.5	S 38、S 49
草 舎 1		102	S 36
草 舎 2		168	S 40
草 舎 3		88	S 40
草 舎 4		75	S 25
製 酪 場		60	S 2、S 49
石 灰 倉 庫		20	
車 庫		32	
農 機 具 庫		30	
農 機 具 庫		32	
農 機 具 庫		50	S 61 (篠津)
車 庫		60	
サイロ 1	軟 石	170 t	S 2
サイロ 2	レ シ ン ガ	140 t	S 34
サイロ 3	レ シ ン ガ	80 t	S 2
サイロ 4	軟 石	60 t	S 49
サイロ 5	軟 石	80 t	S 49
サイロ 6	セ ラ ミ ッ ク	60 t	S 38
サイロ 7	ス チ ール	60 t	S 49、S 57 (モイストグレイン)

表4 主要機械施設

トラクター	10台	42 PS	44 PS	60 PS (中61年)	61 PS (中60年)	67 PS (45年)	67 PS (中60年)	72 PS (中41年)	80 PS、96 PS (中58年)、61 PS
コンパクトベラ	3台	S 48、S 51、S 57 (中)							
ロールベラ		S 55							
コーンハーベスタ	2条	S 60 (中)							
モアコン		S 61 (中)							
パイプライン		S 59							
バークリーナー		S 46、S 47							
バルククーラー		S 53	2,100 ℓ、	S 60	3,000 ℓ	(中)			

注) 中は中古

もレーキをかけてありますと、それほど中にいきませんので、そのときには水分ながらも1日ぐらい待ちます。上が乾いても中がまだ濡れていることがありますから。グラスサイレージはともかく水分の調整に1番気を付けています。

それからグラスサイレージには日甜さんから、牧草地18ヘクタールから20ヘクタールぐらいの牧草に対してドラムで12本ぐらいの糖蜜を分けて貰いまして、それを糖蜜1に対して水3ぐらいに溶いて使っています。最近のプロアはすごく能率がいいものですから、最初はプロアの所に溶いた糖蜜をチョロチョロ落としていたんですけども、それですと糖蜜の使い方が足りないので、牧草をもって来たら、その上にバケツで2杯か3杯かけて、その後はホースでプロアの口につけて糖蜜を混ぜています。

給与法としては年間通じてグラスサイレージとコーンサイレージを混ぜるのが1番良いっていうことを、私としては理想に思っているんです。ただサイロが1つの牛舎に2つずつ作ってあるんですが、必ず1年おきに底が出るように、底が出たらサイロを詰める。サイレージがなくなると、これも辛いものですからね。いつもグラスサイレージがある上にコーンを詰めて、コーンが少し残っている上に、また空いているサイロにグラスサイレージを作ってコーンとグラスを混ぜてやる(給与)ようにしています。

現在のところコーン品種は121日を作っておるものですから、グラスサイレージは7月の中旬から10月いっぱいぐらい、それからデントコーンがその後ですね。ダブル月が1か月ぐらいありますが、コーンとグラスサイレージとで乳成分は、私のところで見ている、コーンからグラスサイレージに変わってもそう乳成分は変わっておりません。

それから乳量もコーンからグラスサイレージに変わって、変わり目にはどうしても完全なサイレージは出来てないと思いますけれども、その後はコーンもグラスサイレージも乳量的には大きな変化はないように思います。

しかし今後、労力的には、グラスサイレージを主体にする方が乾草を作る労力に比べて節減できるようなので、現在の農場周辺の環境が酪農の条件として難しくなってきましたので10年計画で将来移転をするときが来るんじゃないかならうか。そのときには、グラスサイレージにかなりのウエイトのおいた施設をしたい。そういう目で、グラスサイレージだとか、トレンチサイロだとかを見学したりしていますが、現在のところはデントコーンを2年作り、その後に麦を作るというようにしています。

表5 乳量水準の変化と産次構成

		58	59	60	61	62
延	頭数	124	126	139	124	146
実	頭数	100.1	105.7	107.2	107.9	113.5
乳	量	7,206	6,985	7,528	7,551	7,155
脂	肪率	4.37	4.49	4.12	4.11	4.16
無	脂固形分		8.95	9.02	9.0	8.91
産 次 構 成	1	19	28	28	21	40
	2	15	14	28	22	24
	3	30	13	12	22	19
	4	13	25	18	8	17
	5	12	12	21	17	8
	6	9	11	9	12	17
	7	13	6	9	11	8
	8	3	9	11	6	4
	9	4	4	3	5	7
	10	1	1	-	-	2
	不明	5	3	-	-	

それから、牛の泌乳能力の方は、どうも恥ずかしいようなですね。これ(表5)ご覧になると分かるんですけども、あまり高くないんです。これは、少し従来のブリーダー的な感覚を失えなかったために、やはり系統っていうものをいつも大事にしてるものですから。これ(表5)はごく最近の荒木先生の調べてくれたデータなんですけど、10産が2頭とか、9産、6産が17頭とか、随分老牛が多くなっているんです。昨年は牛群が老牛化していて9才以上が24頭もいたものですから、牛群をもう少し若返らせようっていうことで初産を昨年かなり残したんです。そうしましたけれども依然として今年の正月には16頭の9才以上の老牛が牛群の相当の比率を占めているわけです。また昨年の乳量の落ちているのは初産が44頭いるということで、成牛換算では8,400キロぐらいになっているんですけど、実乳量にしますと7千2、300キロしかいってないようです。今年はかなりになると思っています。

飼養管理につきましては、私どもは、乾草、サイレージを非常に大事にしてやってまして、青草放牧を、実は住宅街の迫ったあの環境では出来ないものですからしておりません。しかし、乾草だけは十分に、飼槽の中に乾草がないというようなことのないようにしております。それから濃厚飼料給与量は、今年から牛の飼養管理を私の息子に本格的に全部任せますが、従来、長くやってきた給与量は、成牛には8.2キロ、初産には6.8キロにおさえてまいりました。そういうことで、私はいつも6産5万キロ、無理をしないで搾れば、その方が良いんじゃないか、と思っております。しかし、私は、現在の7,300キロで、これだけの人を使っているのは採算合わないと思うんです。けれども、市乳化したものですから、皆さん方から羨ましがられると思うんですが、恐らく皆さんの乳価の倍以上で全部消化できているっていう甘さもあるかもしれません。

大体8,000か9,000キロぐらいの乳量は2産3産になれば出ますから、北海道の場合、一昨年の統計を

見ましても能力が上がったけれども平均寿命が非常に短くなってきています。日本酪農の立場から将来を考えますと今1万6,800戸ですが、今後(昭和)70年には1万5,000戸になろうとしている時に、やはり乳牛の耐用年数をもう少し長くしなきゃいけないんじゃないか、それには先程も申されてましたように濃厚飼料では、牛は長く持たないんじゃないか、やはり良い粗飼料を作る努力をすることが1番大事じゃないかと思っております。

私どもは、配合の4分の1弱を自家生産の麦でやっていますので、市乳の月の収入に占める購入飼料の比率といいますと、12、3%にしかならないんじゃないかなと思います。そういう点で、今年の後半から高泌乳牛に対しては自家配合8kgにして表6のサプリメント、(高蛋白の、澱粉価の高い餌)を、今、40kg以上出ている牛も3、4頭いるんですが、そういう牛には4kgぐらいやるようにしています。なお濃厚飼料は一部購入していますが、大半は自給飼料でやっております。

それから先のお二方のスライド(写真)を見まして非常に高能力をあげているのに、最小限の設備投資でやっておられるのを見て、私は非常に共鳴しておるわけです。私はどっちかっていいますと古い建物を極力利用するように努めていますし、それから農機具も古い農機具を大事に使っています。また、最近、うちの元実習生で機械に良く通ずる人が、中古の良い機械を見つけてくれて非常に格安で経営的に効率の上がるそういう恩恵をうけております。

表6 自家配合飼料の構成内容 (kg)

搾乳用(A)		サプリメント(B)	
えん麦	50	大豆粕	40
フスマ	50	加熱大豆	40
大豆粕	20	綿実	40
アマニ粕	15	エコノミー(コーン)	20
ヤシユ粕	10	ミネラル	4
エコノミー(コーン)	40		
綿実	20		
ミネラル	6		
TDN 73, CP 20		TDN 89, CP 33	

表7 乳量水準別飼料給与内容 (kg)

種類 乳量水準	自家配合		ビート パルプ	乾草	コーン サイレージ	グラス サイレージ
	A	B				
40kg~	8	4	3.5	7	20	
35~40kg	9	2	2.5	7	20	
30~35kg	10	-	2.5	7	20	
(多)~30kg	9	-	2.5	7	15~16	
(少)	6	-	1.2	7	15~16	
乾乳	2(若牛用)		-	7	10	
給与期間	年間年間	年間	年間	年間	11~6月	7~10月

表8 育成牛の飼料給与内容・飼養形態

飼料給与内容	~2ヶ月	全乳哺育 270kg/1頭
	2~6ヶ月	脱脂乳 10kg/1日
	1~2週~	乾草
	1~6ヶ月	自家配(えん麦、ふすま、仔牛用P)
	6~1年	仔牛用ペレット
	1年~	若牛用ペレット
飼養形態	3日~3週間	カウハッチ
	3週間~4ヶ月	独房
	4ヶ月~	群飼

表9 牛乳の販売の内容

生乳生産量	598 t 208 kg
うちバター生産量	10,628 ポンド
販売先	道内スーパー ダイエー イトウヨーカドー ニチイ 生協 主要デパート 江別市内宅配 札幌・江別・小売店
牛乳ビン	180 cc
牛乳パック	500 cc、1,000 cc

牧草地の造成法としては、牧草の発芽の点が非常に大事だと思うんですけども、私ども牧草の前作は麦に決まってるんです。けれども、春蒔きをしますとどうしても一番を刈ろうかなと思ってるうちにアカザがでてきて良い乾草にならないもんですから、秋蒔きの牧草にずっとしてるわけです。そのために牧草の播種量は規定よりも少し多めになっていると思います。まず9月の10日か15日頃までに、大体牧草は蒔けるようにしています。そうしますと、秋になりますとかなり畑が青くなってきますし、翌年の牧草が一番から乾草になります。そして、初年目（翌1年目）の乾草は2回しか刈っておりません。大体7月の下旬に刈って、後9月の中下旬に2番を刈るようにしてます。収量は少なくとも2回刈りで良い草が取れています。

それから肥料は、初めて蒔く時には、溶燐を40kg。その後は、元は自家配合だったんですけども、今は草地化成にしました。またルーサンの多いところにはルーサン用の草地化成30kg撒いています。そして江別の方だけは尿散布を春と秋2回しますので追肥も30kgぐらいです。当別の方は大体50kgぐらいの追肥を1回だけしてます。それで、江別の方は2番を刈ったあとに追肥を20kgぐらい。それにカリを4kgから6kgぐらい追加してます。

私どもの牧草収量は多いとは言えないかもしれませんが、心がけとしては収量が多くとも、雨にあたり何かして品質を低下してしまいますと、せっかくの牧草も価値が落ちますので、幸い私どもは人も多くいるせいでもあるのですけれど、極力雨に当たらないように草を作っています。それで、乾草にしようと思う草で翌日降りそうだった時には、ロールベラーで1回軽くロールにして、元は手で積んだものですが、今はそんなこともできませんので、ロールベラーで丸めておき、うえにムシロか何か一枚かけて、かけなくてもほとんど痛まないですね。雨があがったら、それをまたトラクターのローダーの先に爪ではさむようにしてひっかけバックして流していく、その後テッターで混ぜて手で一部を直すようにします。乾草を作るには、6月下旬ごろから乾草がはじまりましたら10月上旬まで、ともかく少しでも良い草を作りたいということをいつも心がけております。それから、できた乾草は、もし水分が多いと思う時にはヘイセイバーをスプレーしています。けども、それもやはり水分が25%以上になったら熱をもちますから、その効果は、あまり期待できないんじゃないかと思います。しかしどうかなと思う時には、そういう物を使えば十分じゃないかと思っています。

それと、もう一つ、私の所では、牛舎の二階に最初32年にヘイドライヤーを作ったんです。それは牛舎の二階に簀の子板をずっとひいてあって、中に高さ1m50位のフードを作って、その下の二階の淵五尺くらいまでは、とめてありますけれどもびっちりやっておりますが、風道前の方に10馬力のファンがあるんです。で、もし水分が多くて危ないなと思った乾草を、ロールベールにして牛舎の二階に上げた場合は簀の子になってますから、風道の戸を上げて開けますと風が上に抜けますので、13段ぐらいまで積んでもファンを回したら必ず抜けてきます。ですから、うちの牛舎では、3つの牛舎の乾草を入れる所の牛舎には、この施設をしてあります。危ないと思った時には、入れて3日ぐらい回しっぱなしにして絶えず3日か4日ぐらい牛舎の牧草の上にあがって座っていると、熱があるとすぐわかりますか

ら、そういう時にはまたファン回しますとすーと抜けます。そういうようにして、せっかく作った牧草を良い状態で牛に食べさせるよう心がけだけはいつもしています。

それから、もう一つ、牧草を蒔く播種機ですね、これは私、会社の先程のPRじゃありませんけども、私、40年に種牛を買いにアメリカへ行った時、ブリリアンのグラスシーダーが一番良いついていうことをいわれまして、買って来たグラスシーダーを今でも使ってるんです。それを私が自慢してたら北大に来てたアメリカの先生が、北大にドックフィートのブリリアンのグラスシーダーがあるって、うちの方が先だっていうことを言われたんです。そのブリリアンのグラスシーダーっていうのは、非常に良いグラスシーダーですので共同で購入されたり、何かしてこれを使われると良いですね。これは、ちょうど牧草の種子のうまる深さっていうものがあるわけですが、そこに非常に良くできていて、溝に牧草種子が落ちて、後の車がそれを押えつけるようにして粘土地の堅い土でも非常にきれいになります。パッカだけだと、なんだか牧草が後でん圧したような感じがしないんですけども、これは非常に良く、蒔いた後きれいになります。それで、私の所では元ローターベータだけで、その後すぐグラスシーダーで蒔いたんですけども、今はロータベータをやった後レリーテラーで浅く攪拌し努めて土をある程度落着け、またトラクターの跡などなるべく消すようにして、それからグラスシーダーで蒔いてますので、非常に発芽が齋一であるんです。もしうちにいらしたら、もう23年働いてますけどもね、まだまだこの先使えると思います。これはブリリアンというウィスコンシンで作ってるグラスシーダーですけども、そういうものを一つ検討してみてください。

どうもちょっとオーバーしまして何を話したかよくわかりませんが、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(萬田座長) どうもありがとうございました。町村さんには大先輩として、酪農経営の基本にかかわる草作り、具体的な自分の技術を交えながら、詳細にお話していただきました。お三方の話題提供が終わりましてところで10分ほど休憩をとります。次は3時半から荒木先生のお話しをお伺いしたいと思います。

(萬田座長) それでは始めますけれども、その前に連絡で、事務局の方から北海道草地研究会シンポジウム質問用紙というのが回ってると思いますが、この用紙に、話題提供者に対しての質問とか意見がありましたら、ご自分の名前と所属書いて、どなたにご質問あるいはご意見か、簡単にわかりやすく書いて、こちらの事務局の方へ終わる前に届けて下さい。それによりまして最後の討論を進めたいと思います。よろしくお願ひします。



町村末吉氏